

27pWK14 群馬県女子師範学校生徒の蒐集資料に見る 19C 物理・科学教育の普及

群大工^A, 埼玉医大^B, 前橋南橋中^C, 群大教育^D, 数理設計研^E

玉置豊美^{A,E}, 赤羽明^B, 高橋浩^A, 森下貴司^C, 滝沢俊治^A, 所澤潤^D

Development of Physics or Science Education in Gunma Prefecture found in Meiji-era

Textbooks collected by Gunma Woman Normal School

Faculty of Engineering Gunma University^A, Saitama Medical School^B,

Maebashi municipal Nankitsu Junior High School^C

Faculty of Education Gunma University^D, Mathematical Assist Design Laboratory^E

Toyomi Tamaki^{A,E}, Akira Akabane^B, Hiroshi Takahashi^A,

Takashi Morishita^C, Toshiharu Takizawa^A, Jun Shozawa^D

平成13年6月に群馬大学附属図書館所有の未登録明治期教科書に出会って以来、我々はそれらの図書の整理・分類を進め、同時に目録作りを行ってきた。平成16年9月によりやく、目録の第一報を出すことができた¹⁾。理系和装本276冊についてまとめたものである。ここでは目録の概要を述べるとともに、特に、群馬県女子師範学校の郷土研究室で蒐集した教科書から、群馬県における19C物理・科学教育の普及の様子を探る。

目録は物理(55)、化学(58)、博物(26)、生理(44)、総合科学・理科(91)、地文(2)に分類した。それぞれの括弧中の数字は冊数を示す。目録中、出版年が最も古いものは総合科学・理科に分類した『格物入門 水學 一』で、明治2年である。『小學理科新書』、『學校家庭 理科讀本』などを含む15冊が1903-1905(明治36-38)年の出版年をもつもので、残り261冊は1800年代のものであるので、ほとんど19Cの出版物と言ってよいであろう。我々は所蔵印から初所蔵機関を考察した。11種類の初所蔵印を分別できた。それらは、「十七番中學本部學校(9)」、「熊谷縣暢發校(39)」、「群馬縣第五課(2)」、「群馬縣編纂課(3)」、「群馬縣師範黌(96)」、「群馬縣衛生所(3)」、「群馬縣醫學校(2)」、「群馬縣女學校(4)」、「群馬縣師範學校附属小學校(25)」、「群馬縣尋常師範學校附属小學校(14)」、「群馬縣女子師範學校郷土研究室(77)」である。それぞれの括弧中の数字は冊数を示す。

特に上記の「群馬縣女子師範學校郷土研究室」蒐集本は女子師範の生徒が自分の親族・親戚や周囲が明治期に使用した教科書を昭和6年に集めたもので、ここから我々は明治期の群馬県下の教育の実情を知る事ができる。その中の代表的な教科書は『物理階梯』、『物理初階』、『小學校生徒用物理書』、『小學化學書』、『具氏博物學』、『植物教授書』、『動物教授書』、『初學人身窮理』、『小學理科新書』、『高等小學理科書』等である。これらは群馬県の指定教科書であった。それらを分析することにより、物理・科学教育の普及を見る。

1) 群馬大学附属図書館所蔵理系明治期教科書一和装本一の考察 その由来と目録, 玉置豊美, 赤羽明, 高橋浩, 森下貴司, 滝沢俊治, 所澤潤, 埼玉医科大学医学部門紀要, 第10号 2004年, pp1-16